

響き渡る和太鼓の音！！



みのり太鼓メンバー
首藤 俊文さん

「初めて和太鼓を叩いた時、響き渡る和太鼓の音に気持ちがスカッとした」と笑顔で話す首藤さん。

みの~れと共に生活するスタイル
Minole Life
のすすめ No.75

稲穂の絨毯が黄金色に輝き、案山子の姿も見かけるようになりましなね。夏の暑さも和らぎ、虫たちのオーケストラが夜を彩っています。耳を傾けながら読書や趣味を楽しんでみたらいかがでしょうか？今回はみの~れを発表の拠点とする、みのり太鼓で活躍中！自衛隊勤務、小川地区にお住いの首藤俊文さん取材します。

太鼓教室は 和太鼓に触れる 良いキツカケ

首藤さんは、太鼓を始めて7年目。同僚がみのり太鼓の15周年記念公演に誘ってくれて、初めて和太鼓の演奏を聴いたのがきっかけだったという。「最初は練習を見学に行きました。その時、あまりの迫力に圧倒され、気づけば入団していました。初めて和太鼓を叩いた時、響き渡る和太鼓の音に、気持ちがスカッとしたのを覚えています。ただ、経験値ゼロからのスタートだったので、最初はやはり難しかったですね。まあ、今でも課題がたくさんありますけど、7年続けてきて、最初とは違う課題が見えてきました。最初はただ鳴れば良いと思っていただけで、和太鼓の音、でも音にも良い悪いがあると分かってきたんです。最初は違いが全然分かりませんでした。今では良い音を意識して練習しています。違いが分かるようになったのは、自分の成長を実感した瞬間でしたね」と語る首藤さん。

「和太鼓のような、今まで長く続けられる趣味はなかったのですが、仕事で転属になってとしても、行った先でも和太鼓は続けていきたい」と話してくれた。

また、みの~れで毎年実施している「太鼓教室」では、首藤さんも講師の一人として関わっている。「太鼓教室の一般の部は小学校3年生以上が対象ですが、親子の部もあるので5歳からの小さい子でも教室に来てくれます。和太鼓を叩く楽しさを少しでも知ってもらえれば」と言う首藤さん。「この太鼓教室は、地域の人々が和太鼓に触れる良いキツカケになっています。長い目でみれば、和太鼓文化の普及に繋がると思っていますね。文化は急には育たない、長い目でみないと成果は出てこないですから」と語った。

10月6日には「第28回茨城の太鼓演奏会」が開催される。チラシのモデルは首藤さん。茨城の太鼓団体11団体が、みの~れの森のホールで、迫力あるステージを見せてくれる。ゲストで、同じ小美玉市の太鼓団体である小川太鼓・玉里創作太鼓も出演する予定だ。「今回の公演は高校生が中心で、大人はスタッフとして公演を支えます。また、みのり太鼓は久々に主管です。たくさんの方に和太鼓の音を楽しんでいただきたいと思えます。入場料は無料ですのでぜひ足を運んでください」と話してくれた。

「太鼓と出会って変わったのは、幅広い年齢層のメンバーと楽しく付き合えることですね。暇がなくなり、また太鼓をやっていることが週末にならなくてもやるのがなかったと思いますよ」と笑う。首藤さんは東京都出身。大きな公演がある際は、ご両親が東京から見に来てくれるそうだ。首藤さんの影響からか、ご両親も太鼓に興味を持ち、実家の近くで太鼓の公演があると、見に行くようになったという。

また、みの~れについては、「発表の場ですね。斬新な企画やイベントを多く開催しているので、これからもどんどん参加していきたいと思えます」と爽やかに語ってくれた。